

中央社保協全国総会が開催されました

～大軍拡反対と社会保障の拡充を求める闘いをひとつにして

8月10日（土）、中央社保協の全国総会が開催されました。和歌山県からは佐藤事務局長がオンラインで出席しました。

来賓あいさつで、宮本徹衆議院議員（日本共産党）は、子ども子育て支援法が成立し、1兆円の財源確保のために社会保障費を削ることや、軍事費43兆円の財源確保のために社会保障費がますます削られると指摘されました。大軍拡に反対する運動と社会保障を拡充する闘いは切っても切り離せない局面を迎えています。

★能登半島地震被災地 医療機関はフル稼働できず、新型コロナや熱中症に対応

石川県社保協の藤牧事務局長は、被災地では新型コロナの流行や熱中症患者が発生しており、一方では医療機関や介護事業所がまだフル稼働出来ないでいることを報告。県は現実に目を向けず、4病院の統廃合を強引に推し進めようとしていると告発。医療費、介護利用料の自己負担の軽減を9月以降も継続するよう求めたいと発言されました。

★“保険証残せ”の運動は正念場

“保険証残せ”の運動では、神奈川県、岩手県、福岡県から発言があり、幅広い団体を結集して運動を進めています。保険医協会の先生方が白衣で街頭に立つとたくさんの署名が集まるという報告も。地方議会から意見書を上げさせる請願も取り組まれています。中央では、8月30日に学習会（オンライン併用）を開く他、10月24日に国会内集会、11月7日に日比谷野音での大集会とデモ行進が計画されています。“保険証残せ”の運動は正念場を迎えます。

★子ども医療費無料化への新たなペナルティの撤回を求める

新婦人の代表から、厚労省が子ども医療費の無料化をやっている自治体に対して新たなペナルティを課そうとしている問題を取りあげました。ワンコインでも窓口負担を取れという通知を厚労省が自治体に対して発出しました。中央社保協は、この問題に対して10月に政府交渉を行う計画で、それまでに全国から要請書を集めます。

★和歌山県から、橋本伊都社保協と和歌山市社保協の取り組みを報告しました

和歌山県からは、橋本伊都社保協が介護保険料の引き下げを求める署名運動に取り組み、保険料を基準額で1,000円引き下げさせた運動の経緯、和歌山市社保協が国保料1万円の引き下げを求めて署名運動をおこない、県内多くの自治体で保険料・税が値上げされた中で、保険料の据え置きを勝ち取った経緯について報告しました。